

平成 29 年度

アウトリーチ委員会 報告書



アウトリーチから アートリーチへ

鑑賞から共鑑・共感・共歓

アートでつながるひと、
アートで創り合うひとたちと、まち



平成 30 年 3 月 23 日

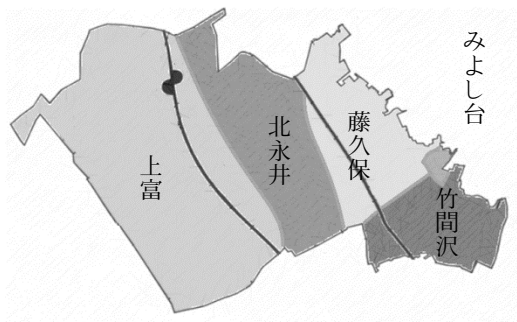
三 芳 町 教 育 委 員 会

目 次

1	はじめに	3
2	アウトリーチ委員会の活動	4
3	アウトリーチなどの活動の実態について	
3.1	アウトリーチ活動	4
3.2	アウトリーチ的活動	6
4	アウトリーチの具体的な効果	8
5	三芳町がなぜアウトリーチ活動を柱として取組むのか	9
6	鑑賞から共鑑・共感・共歓そして共に創る取り組みへ	9
7	アウトリーチからアートリーチへ	10
	三芳町アウトリーチ活動・アウトリーチ的活動アクションプラン（案）	11
	アウトリーチ委員会をふり返って～各委員の感想～	12
	アウトリーチ委員会の活動記録	14

1 はじめに

首都圏 30km に位置する三芳町は、明治 22 年に上富・藤久保・竹間沢・北永井の 4 村が合併し三芳村となり、昭和 45 年に町制施行されました。高度経済成長と共にベッドタウンとして、また首都圏の流通基地として発展し、現在人口は約 38,000 人。さつまいもやほうれん草などの栽培が盛んで、町の東西を関越自動車道と国道 254 号線が通っています。



明治時代以降、各地区で「お囃子」が取り組まれ、現在にもつながっています。また竹間沢には「里神楽^{※1}」や「車人形^{※2}」が伝わり、盛んに取り組まれています。平成 14 年 4 月 23 日には町で初めての劇場「文化会館コピスみよし^{※3}」が開館し、運営は、当初の町の直営から平成 22 年度には指定管理者制度^{※4}に変更されましたが、芸術文化活動の拠点として現在も様々な活動が盛んに進められています。



ベタリングジャヤ市（マレーシア）で
上演した竹間沢里神楽

平成 25 年 6 月から「芸術文化懇談会」と「芸術文化プロジェクトチーム」がスタート^{※5}し、芸術文化活動の果たす役割などについて、平成 27 年 3 月に『生きる力を育む芸術文化～ワクワク、ドキドキの芸術文化を目指して～』として町への提言を出しました。また、平成 28 年 4 月に掲げられた「三芳町第 5 次総合計画^{※6}」に「(仮称) 芸術文化のまちづくり条例」の策定が位置づけられました。また「第 2 期教育振興基本計画^{※7}」には、「様々な人たちに芸術文化活動に触れてもらうための、積極的なアウトリーチ活動^{※8}を推進します」と定められています。

※1 民間で演じられる神楽の称。古事記や日本書紀の神話を演じる無言劇。主に神社の祭礼で上演されます。

※2 埼玉県指定有形民俗文化財、三芳町指定無形民俗文化財である竹間沢車人形を用いた人形芝居。竹間沢車人形は幕末の文久年間（1861～1864 年）以来、三芳町竹間沢に伝わる人形芝居であり、一度は途絶えたものの、埼玉県の調査により昭和 47 年（1972 年）に発見され、保存会によって守り継いでいます。

※3 正式名称は三芳町文化会館。愛称を公募し、「コピスみよし」と名付けられました。三芳町の芸術文化の拠点として、鑑賞・発表・参加を目的とした様々な自主事業の他、多くの町民の芸術文化活動の場として活用されています。

※4 それまで地方公共団体やその外郭団体に限定していた公共施設の管理・運営を、営利企業や財団法人、NPO 法人、市民グループなど法人その他の団体に包括的に代行させることができる制度です。

※5 三芳町の限られた財源・資源の中で、地域特性を生かした芸術文化をいかに創造・展開していけるかを研究するため、有識者や町民で構成される三芳町芸術文化懇談会と、町職員を中心に構成された政策研究所内に芸術文化プロジェクトチームが設置されました。

※6 平成 28 年度から 35 年度（2016～2023）までの 8 年間の新たなまちづくりの指針として策定されました。

※7 町の実情に即した教育の理念や方針をもとに、学校教育と社会教育を柱とした教育振興のための施策に関する基本的な計画です。

※8 公共的文化施設などが行う地域への出張サービスのことです。コンサート活動に触れる機会が少ない人たちのところに演奏者が出向いて、ワークショップ、ミニコンサートなどを行う普及活動をいいます。“アウトリーチ”には「手を伸ばす」という意味があり、限られた空間、限られた人数に対して手の届きそうな距離で濃密な鑑賞・参加の機会を提供し、芸術文化への関心を深め、芸術文化がもたらす創造力や共感等の豊かな感性を育てることを目的としている。



江戸時代末期より受け継がれる
竹間沢車人形

2 アウトリーチ委員会の活動

平成 17 年 2 月 23 日、(財)地域創造^{※9}の支援を受けスタートした“おんかつ”^{※10}は、翌年度からは町独自で取り組む事業となり、すべての小学校で 5 年生を対象に、一流のアーティストを派遣して本物の音楽体験を行う「音楽アウトリーチ」として本年度（平成 29 年度）まで継続実施しています。その後対象を中学生・幼児（保育所・幼稚園）に広げています。平成 22 年度からは町の様々な会場や施設を利用し、誰もが気軽に鑑賞できるスタイルの大人の音楽アウトリーチ事業として「ロビーコンサート^{※11}」がスタートしました。また、コピスみよしをベースとして、芸術文化活動に町民が参加する「ワークショップ^{※12}」の取り組みなど「アウトリーチ的活動」も積極的に進められています。



小学校で行われる音楽アウトリーチ

平成 26 年度に出された『生きる力を育む芸術文化～ワクワク、ドキドキの芸術文化を目指して～』提言書では、芸術文化活動の役割として、一つ目は、芸術文化活動そのものが有するもの（ワクワク・ドキドキ感、励まし、癒し等）と、二つ目には人間関係や地域社会の関係（コミュニティ）の維持・形成があると示されています。その役割を果たしていく手立てとして「アウトリーチ活動」が有効であるとしています。アウトリーチ委員会では、アウトリーチ活動の取り組み内容について整理をして示すと共に、その意義や役割について協議を行い、今回の報告書の提出に至りました。

※9 地方団体の要請に応じて芸術文化の振興による創造性豊かな地域づくり団体を支援することを目的として、総務省を所管として 1994 年に設立された法人です。

※10 地域創造が取り組む事業で、地域においてクラシック音楽を身近なものとするため、オーディションで選考された新進演奏家を公共ホールに派遣し、地方公共団体等と共催でコンサートとアクティビティ（アウトリーチをはじめとする演奏交流プログラム）を実施するものです。

※11 三芳町が取り組む、町内の様々な場所（公民館、病院、ショッピングモール、古民家、議場、雑木林など）で行う入場無料の開放型コンサート。アウトリーチの側面も持つ。

※12 音楽や演劇のような身体表現における学習と作業参加を通じて、学びや創造、問題解決やトレーニングにつなげる体験型講座です。

3 アウトリーチなどの活動の実態について

これまで、三芳町ではどのようなアウトリーチ活動、或いはアウトリーチ的活動が行われてきたか、以下に示します。

3.1 アウトリーチ活動

（1）小学校音楽アウトリーチ（平成 16 年度～ ※現在も継続）

平成 16 年度に“おんかつ”として実施され、翌年度からは町独自で取り組む事業として現在まで継続しています。対象は小学 5 年生。受動的になりがちな「鑑賞」とならないよう、実施会場は音楽室という限られた空間の中で行い、能動的に音楽へ「参加」していくよう体験プログラムとして実施しています。プロのアーティストが手の届きそうなくらい近い距離で本物の音楽を演奏することで、『音楽への関心』を高めていくことにつながっています。



平成 16 年度に行われた音楽アウトリーチ

（２）中学校音楽アウトリーチ「芸術鑑賞会」（平成 17 年度～ ※現在も継続）

平成 17 年度より実施。当初は小学校の音楽アウトリーチに対し、中学校ではコピスみよしにて演劇によるアウトリーチを実施していましたが、平成 19 年度で中断しました。平成 24 年度から音楽アウトリーチとして復活し、現在まで中学 1 年生を対象として継続しています。プロのアーティストによる本物の音楽体験に加え、アナリーゼ※¹³を教えるなど、小学校のそれとは別の切り口にて『音楽への理解』を深めていくことにつながっています。



会場内を練り歩き間近で演奏する

（３）保育所・幼稚園アウトリーチ（平成 28 年度～ ※現在も継続）

平成 16 年度に“おんかつ”の取り組みとして実施したのみでしたが、アウトリーチ活動をより幅広い世代へと充実させるために、平成 28 年度より継続して取り組んでいます。対象は 4・5 歳とし、町内全 8 箇所の保育所・幼稚園を 2 年で巡回することで、未就学児も必ずアウトリーチ体験ができるよう取り組んでいます。音が鳴る仕組みをわかりやすい事例（オルゴールをピアノの反響板に当てて音を大きくする、マリンバの鍵盤に指を当ててもらい振動を体験してもらうなど）を実際に体感してもらいながら、『音楽への興味』を持ってもらうことにつながっています。



ピアノが振動する様子を実際に触れて確認する幼児たち

（４）ロビーコンサート（平成 22 年度～ ※現在も継続）

平成 22 年度より実施しています。当初は地元のアーティストを活用する取り組みとして文化会館のロビーで行っていましたが、平成 25 年度より一般向けのアウトリーチ活動として、町内の様々な施設や場所（公民館、病院、ショッピングモール、古民家、議場、雑木林など）を活用し、国内トップレベルのアーティストによる鑑賞機会の提供を行っています。耳なじみのある曲から始まり、楽器の仕組みやアナリーゼなどのトークを交えながら、最後は聞いたことのない難曲をアーティストが挑戦することで、聴衆の『音楽への共感』を高めることを目的として取り組んでいます。



旧池上家住宅（古民家）で行われたチェロと車人形の共演

また、地元アーティスト・団体（ピアノやお囃子、車人形など）と共演機会の場も設けることで、彼らの意識の向上や誇りを高めることにも一役買っています。実施場所の特色も活かし、日常の場を非日常の空間へと変化させるだけでなく、来場者がその場所を知るきっかけ作りにもなっています。

（５）福祉施設アウトリーチ（平成 26 年度～ ※現在も継続）

ロビーコンサートの一環として、町内の福祉施設（特養老人ホームや障がい者施設、グループホームなど）への訪問演奏を行っ



議会議場で行ったロビーコンサートでは通常の議会の雰囲気模して実施

ています。芸術文化は誰もが享受することのできる権利です。利用者の状況を鑑みつつ、あくまでロビーコンサートとして取り組み、ハイレベルの演奏パフォーマンスを鑑賞する機会を提供しています。

もちろん誰でも会場内で鑑賞できます。芸術鑑賞の場と機会を施設利用者及びその家族と地域の人が共有することで、お互いのことを知り、共生社会の実現につながっていくよう期待しています。



誰もが芸術文化を共有する

(6) 人権ワークショップ「ハンナのかばん」(平成 22 年度～ ※現在も継続)

第二次世界大戦時にナチス・ドイツとその占領下のヨーロッパでおきたユダヤ人の差別や殺害の舞台となった「ホロコースト」で殺された 9 歳の女兒ハンナ・ブレイディの実話のワークショップ。三芳町では平成 22 年度から各小中学校で、主に 5 年生を対象に今も続いている。音楽アウトリーチと同じく、基本的には間近で取組まれ共感を生んでいる。

※13…その曲がどのように組み立てられているか、作曲された時代背景がどうだったのかなどを楽曲分析することです。

3.2 アウトリーチ的活動

(1) 公民館事業「ちくまざわマンスリースクウェア」(平成 9 年度～ ※現在も継続)

昭和 58 年には藤久保公民館が開館、平成 4 年には竹間沢公民館が開館し、旧中央公民館と合せて 3 つの公民館において学習文化活動が活発に行われました。平成 8 年度には講談師を講師として講談のワークショップ「講談塾」がスタートし、平成 9 年度には竹間沢公民館に引き継がれました。同年にはパントマイムのワークショップ「パントマイム塾」がスタートし、現在も続いている「ちくまざわマンスリースクウェア」※14 でプロと共に数回に渡り舞台上で発表を行いました。



オペラやジャズトリオなど多岐にわたるジャンルの演奏会を開いている

(2) 「コピスの風」コンサート(平成 15～24 年度)

コピスみよし開館の翌年度からスタートしたこの事業は、2 市 1 町小学生以上の音楽家や音楽家を目指すジュニアを対象とした、オーディション型の発表コンサートです。音楽家を目指すジュニアの参加はもちろんのこと、発表の機会がなかなかもてない方々からも好評を博し、音楽家同士のつながりも作ることができ、参加者同士での演奏活動などにも発展しました。

(3) 初めてのフルートワークショップ「フルートセレブレーション」(平成 15～16 年度)

平成 15・16 年度の 2 年間、昼夜の 2 グループに分け、初心者を対象に音を出すところからスタートしたワークショップです。地元フルートメーカーをはじめ、数社から楽器のレンタルなどを含めた協力をいただき、また指導者の募集を行い、約 10 名のアーティストに指導をお願いしました。2 年後は海外の有名アーティストとの簡単な共演も含めたコンサートを実施しました。現在は三芳町のフルートサークルとして活動が続いています。

(4) コピスみよしののどじまん(平成 15～22 年度)

子どもたちから高齢者まで、誰もが参加できる取り組みとして「NHK のど自慢」を模して「コピスみよしののどじまん」を当時の音楽アドバイザーの金井信のプロデュースにより、平成 15 年度から

実施しました。2市1町を対象にカラオケの愛好家などが多く参加し、ゲストの歌手も招聘し4回行われました。

（５）中央公民館ドラムワークショップ（平成 28 年度～ ※現在も継続）

平成 28 年度からスタートし、今年で 2 年目です。町内の中学生を対象とし、プロのドラマーからドラムセットの組み立て、片付けを教わることに始まり、基礎的な叩き方、応用、そして 1 つの曲を舞台上で演奏発表して共感し合うまで行っています。



プロのアーティストが丁寧に教えながら発表まで目指す

（６）吹奏楽ワークショップ（平成 26 年度～ ※現在も継続）

コピスみよしの「吹奏楽大作戦！」^{※15}の一環として取り組んでいます。平成 26 年度から実施し、毎回公募により約 60 名の参加者が集まっています。国内随一のプロ吹奏楽団である東京佼成ウインドオーケストラのメンバーが楽器ごとにレッスンし、参加者同士での合奏や講師を交えた合奏を経て、ステージ上で東京佼成ウインドオーケストラと共演します。

（７）町民参加のミュージカル「カーソル」の取り組み（平成 14～19 年度）

コピスみよし開館を記念して、平成 14 年・15 年の 2 年に渡り、劇団「ふるさときやらばん」の青少年（小学生から高校生）参加型のミュージカルに取り組み、子どもや保護者が主体的に関わり成功を収めました。その後、この成果をもとに会館と保護者が共に「ミュージカル制作委員会」を組織し、平成 17 年度から 2 年半をかけて完全オリジナルミュージカル「カーソル」が生み出されました。20 数名の子どもたちや保護者によって、平成 14 年度から計 4 年間の取り組みの中で、日頃からの会館の制作者担当者、指導者や協力者などとの様々な関わりの中から作り上げられたものでした。



いきいきとした子どもたち

（８）コピス de 映画プロジェクト（平成 24～26 年度）

コピスみよしの開館 10 周年記念として平成 24 年度に実施。その後も 2 年間続けられました。“町民の手でつくる三芳町の映画”をキャッチフレーズに参加者を募り、小学生から 80 歳の高齢者まで幅広い世代が集まりました。プロの映画人から様々な講習を受け、監督・脚本・撮影・録音・照明・出演・編集・上映まですべて自分たちの手で行いました。撮影にふさわしい町内の場所を見つけ、撮影可能の交渉を自ら行うなど、三芳町のことを学ぶ機会になったとともに、様々な人と知り合うこともできました。出演に際してはオーディションを行い、子どもも大人も真剣にセリフを覚えて演技を行うなど、本気で取り組むことの大切さと楽しみを学びました。



大人も子どもも一緒になって本気で取組んだ映画撮影

（９）コピス・サマー・フェスティバル（平成 25 年度～ ※現在も継続）

平成 25 年度より家族向けの音楽入門コンサートとして夏休みに実施しています。平成 29 年度より午前の部と午後の部に分け、午前は 0～4 歳児を対象としてミニホールで行い、親子で音楽に合わせて遊ぶ「つながりあそび・うた」を実施。午後は 3 歳児以上を対象としたホール公演で、E テレの

音楽教養番組に出演するスギテツや栗コーダカルテットなどを招聘し、家族で楽しめるようわかりやすいプログラムにしています。また、ホールでのコンサート鑑賞だけでなく、その他の会場では楽器体験イベントを実施し、オーケストラで使う本物の楽器を、専門知識を持つスタッフが丁寧に教えながら体験できるものになっています。実際に見聞きした楽器を、自ら手にとって体験することで、興味・関心を飛躍的に向上させています。



本物の楽器に触れることができる楽器体験

※14 竹間沢公民館を地域に根付いたものにしたいという思いと、公民館に携わる団体の発表の場を提供するため、1997 年よりスタートしました。

※15 国内随一のプロ吹奏楽団である東京佼成ウインドオーケストラのコンサート。コピスみよしで行われています。コンサートに付随して、2 日間のワークショップを行い、参加者はレッスンを経て本番で東京佼成ウインドオーケストラと共演します。

4 アウトリーチの具体的な効果

14 年目を迎えた本年度（平成 29 年度）の「音楽アウトリーチ」事業のアーティストは、小・中学校とも、金管五重奏団「Buzz Five（バズファイブ）」でした。中学校は町内全 3 校の一年生がコピスみよしに集い、少し緊張が漂う中で演奏が進み、生徒は目を凝らしてプロの演奏に聞き入っていました。

小学校は主に 5 年生が、自校の慣れ親しんだ音楽室を会場に、まさに目の前、手を出せば楽器に届く位置で演奏が繰り広げられました。トロンボーンのスライド※16 が顔の前まで来て思わずよけたり、大きなチューバの音が体に響いたり、耳からだけでなく、体全体で迫力ある演奏を体験し、友達同士で顔を見合わせ、「共感」・「共歓」していました。演奏の後、クラスに帰ってからたくさんの感想が出されました。

昨年度からスタートした「幼児のための音楽アウトリーチ」では、本年度は 3 つの保育園と 1 つの幼稚園で 346 人の子どもたちと保育士・先生方が、マリンバ・アーティストの濱まゆみさんの演奏を聴き、アーティストと一緒に体を使ってリズムを刻むボディ・パーカッションなどを行い、仲間と共に楽しんでいました。一般向けの音楽アウトリーチでもある「ロビーコンサート」では、本年度は 5 回開催し、病院、みよしまつり、2 つの公民館、三富今昔村※17 で行われました。国内トップレベルのアーティストや町内中学校吹奏楽部が出演し、その場所に応じたプログラムで聞く人の心を温めました。

幼児から中学校の音楽アウトリーチ事業の効果として委員会では、「子どもたちの演奏技術を伸ばすことにつながる」との意見が出されました。三芳町の各小学校では音楽の授業をはじめ、「鼓笛」や「町内音楽会」に積極的に取り組み、どの子も楽器に触れ、演奏を行っています。「あんなふうに演奏してみたい」「プロの音をまねてみたい」「ハーモニーがきれい」と感想にも表れています。

ある委員は「子どもたちの成長期に必ず複数回の音楽体験を行う、しかも日頃一緒に過ごしている仲間達との体験を共有することは、その年代に合わせて音楽に対する興味や関心が成長し、また感動を分かち合うことの喜びを知るという意味でも、豊かな感性を育む効果がより期待できる」と意見を述べています。また、幼児・小学生・中学生と年代別に 3 回実施することは、より多くの体験



間近で見る楽器とその説明に
興味津々の子どもたち

をすることで効果が上がることとなります。

平成 25 年度からアウトリーチ活動としてスタートした「ロビーコンサート」は、町の様々な施設やイベント会場で実施されています。この「ロビーコンサート」は基本的には入場無料で、誰もが自由に参加できるため、中高年を中心として人気があります。この取り組みを大人のための音楽アウトリーチ事業として位置づけ、子どもたちと同様に「感動を分かち合うことの喜びを知り豊かな感性を育む」ことをねらいとして取り組んでいきます。

※16 トロンボーン之音を変化させるために前後に動かす管の部分のことです。

※17 三芳町のリサイクル企業である石坂産業が運営する、里山保全のための施設です。

5 三芳町がなぜアウトリーチ活動を柱として取り組むのか

芸術文化活動で得られる効果として改めて考えてみると、「ワクワク・ドキドキ感」は、高揚感であったり、感動をしたりすること。また「励まし・癒し感」は、心の痛みや苦しみが癒されたり、更に物事に前向きに向かっていき自己実現を図ったりすることなど、「生きる力」が生み出されていくことではないかと考えます。

今日、テレビ、ラジオやインターネットなどから容易に音楽などを受け取ることができます。テレビなどから流れるアーティストの演奏で、感動したり癒されたりすることができます。また、数万人の規模で行なわれるコンサートなどに参加して感動を受けることもあります。本年 3 月 4 日には「ザ・シンフォニエッタみよし」※18 の特別演奏会がコピスみよしで開催され、好評を博すと共に多くの感動や感銘が生み出されました。



三芳町のプロ・オーケストラ
「ザ・シンフォニエッタみよし」

では、アウトリーチ活動やアウトリーチ的活動の役割とは何かを改めて考えてみると、間近で仲間や友達などと鑑賞や活動を共にし、共感・共歓していくことが豊かな感性を育む効果がより期待できると考えます。豊かな感性とは、五感を稼働させて、物事を様々な角度から見られることや、想像力を広げていくことなどが考えられます。これらの経験を通して、自らを素直に表現していくことや創りだしていくことができるようになることも考えられます。一方で、子どもたちや大人たちが感性を磨くこととともに、仲間や他者との関わりの中で他者を尊重し、コミュニケーションを図っていくことが大切です。そのためにもこの活動を柱として、三芳町の芸術文化活動が進んでいくことが望まれます。

※18 三芳町初のプロオーケストラとして 2014 年に結成。国内のプロ名門楽団の首席奏者や国際コンクールでの優勝・入賞者らにより構成させる。

6 鑑賞から共鑑・共感・共歓、そして共に創る取り組みへ

町に伝わる「お囃子」「里神楽」や「車人形」は、祭礼などに出向いて演じられ、みなさんが共に楽しんだり、癒されたりしています。まさにアウトリーチ活動そのもので、私たちへのとても素晴らしいギフト（贈り物）となっています。平成 27 年 5 月 3 日、中央公民館の開館記念イベントでは、三芳小学校 4 年生の児童が、竹間沢里神楽保存会の指導により、「寿式三番叟」※19 を見事に演じきり

拍手喝采をいただきました。また、昨年12月3日に行なわれた第16回竹間沢車人形公演の取り組みでは、中学生2人を含む6人が参加し、竹間沢車人形保存会の方々と共に約8ヶ月間の練習を重ね、舞台上で演じ好評を博しました。この取り組みは、練習＝ワークショップとして、アウトリーチ的な取り組みの見本のようなものでした。

コピスみよし開館2年目より、音楽アウトリーチ事業が開始され、ミュージカルなどのワークショップもスタートし、その後は様々な形態により事業が進められてきました。委員会の中で、改めてアウトリーチ・アウトリーチ的事業の持つ意義や必要性が合意されました。町民の一人ひとりが共鑑・共感・共歓しあい、豊かな感性を育み、育ちあうための大きな役割としてアウトリーチ活動を捉えることができます。



伝統芸能を通じて世代を超えた
コミュニティが築き上げられていく

※19 舞台を清める舞で、その日の舞台を無事に務め上げられますようにと願いを込めて、舞台の幕開けに舞います。悪霊を大地に踏み沈め、豊作と健康を祈願する舞でもあります。

7 アウトリーチからアトリーチへ

これまでみてきたように、アウトリーチ活動やワークショップなどのアウトリーチ的活動は、三芳町が推し進めてきた芸術文化振興の中心的役割を担ってきました。芸術文化活動を通じて、住民の感性を育み、心豊かな生活の実現を目的として、自己実現やコミュニケーションの充実、多様性ある社会への理解、独自性ある創造活動等を組み込んで進めてきました。アウトリーチ委員会での協議や研究でも、これらの要素を含んだアウトリーチ活動・アウトリーチ的活動の必要性が求められており、今後も継続して進めていくことが重要です。

しかしながら、これまでの取り組みは明文化されてはおらず、首長や担当者が変わればその性質も変化していつてしまう懸念があります。芸術文化活動の役割や効用をくらしや生活の一部として活用し、町民が幸せ（＝豊か）になるためには、これまでの取り組みを継続していく必要があります。また、より多くの町民が芸術文化活動そのものに興味を持ってもらい、より関心を高め、さらに理解を深めていくためにも、アウトリーチ活動・アウトリーチ的活動のアクションプランを着実に進めていき、町の芸術文化活動のビジョンとなる「(仮)芸術文化のまちづくり条例」を策定し、町民とともに芸術文化活動を伸ばしていく＝アトリーチ活動を進めることが重要と考えます。

三 芳 町

アウトリーチ活動・アウトリーチ的活動 アクションプラン

アウトリーチ活動・アウトリーチ的活動アクションプランの趣旨

三芳町では、(仮)芸術文化のまちづくり条例の策定に向けて、平成30年1月から3月までにアウトリーチ委員会において議論・研究された内容を基に、今後のアウトリーチ活動・アウトリーチ的活動の施策内容を具体化したものです。

施策の柱と具体的な施策

アクションプランにおいて、3つの施策を柱として位置づけ、具体的な施策を提示します。

■施策の柱1 幼児期から義務教育期間において定期的に芸術文化活動に触れる機会を促進します

- ① 幼児期では、幼稚園・保育所の4・5歳を対象として、芸術に興味を持つことを考慮したアウトリーチ活動を年に1度以上実施します。
- ② 小学校では、高学年を対象として、芸術に関心をもつことを考慮したアウトリーチ活動を年に1度以上実施します。
- ③ 中学校では、1年生あるいは2年生を対象として、芸術への理解を深めることを考慮したアウトリーチ活動を年に1度以上実施します。
- ④ 小学生以上を対象として、町の伝統芸能等に参加する機会を促し、伝統芸能の継承者を育成します。
- ⑤ 学校の芸術科目教育と連携を図るため、担当教員は関係するアウトリーチ活動に参加できるよう努めます。

■施策の柱2 町民全体が芸術文化活動に触れる機会を促進します

- ① 誰もが鑑賞・参加することのできるアウトリーチ活動・アウトリーチ的活動を、町内の様々な場所を会場として、年に4回以上実施し、年間の参加者数380人を目標として実施します。
(例) ロビーコンサート
- ② 高齢者・介護などの福祉施設利用者を対象としたアウトリーチ活動を、年に1回実施します。
- ③ 在住外国人も気軽にアウトリーチ活動・アウトリーチ的活動に参加できるよう、チラシやプログラムでの英文併記に務めたり、外国人アーティストや講師を起用したりするなど努めます。

■施策の柱3 質の高いアーティストを招聘し、芸術文化を町に根付かせていきます

- ① アウトリーチ活動のアーティストには、質が高く、できるだけ三芳町に関係の深いアーティスト(「ザ・シンフォニエッタみよしメンバー」等)を招聘します。
- ② アウトリーチ活動・アウトリーチ的活動のアーティストとよく打ち合わせをし、三芳町の状況や場所の特徴などを考慮したプログラムにするよう努めます。
- ③ 事業終了後には参加者からアンケート等を募り、反省点や改善点を踏まえながら、次回の実施に向けたPDCAサイクルを徹底させていくことで、事業と町の親和性を高めていきます。

アウトリーチ委員会をふり返って ～各委員の感想～

伊勢亀 邦雄 委員長（生涯学習課長）

コピスみよし開館から2年後、(財)地域創造主催「おんかつ」事業に参加。翌年2月にはマリニビストの浜まゆみさんを迎え、小学校と保育所、福祉施設で「音楽アウトリーチ」を行いました。演奏が終わると直ちにマリンバのバラシ、次の会場に運び組み立てて演奏の繰り返し。合間ではアーティストとコーディネーターを交えて食事をしながらの打合せ。最終日のコピス公演の前日は、深夜までアルコール付のダメ出し。翌朝は早出して、プログラムの作成と印刷そして本番。充実の「おんかつ」事業でした。

13年経った今、この報告書に携わることができる幸せを感じています。「アウトリーチ」は、私たちの芸術文化活動の根幹そのものです。

楠瀬 寿賀子 委員（三芳町芸術文化推進事業アドバイザー）

三芳町は、16年に及ぶ小学校へのアウトリーチをはじめ、中学生から高齢者まで、各世代へのアウトリーチやロビーコンサート、数々のワークショップ、町民参加型の公演など、それぞれの年齢や特性に即した内容での事業を実施してきた。委員会では、小学校へのアウトリーチや参加型公演を体験した子どもたちには音楽への積極的な反応、自己表現や他者との関係づくりにおいての向上が見られる、という感想も聞かれ、意義ある実績を積み重ねてきたことがうかがえる。

多くの町民が身近で音楽などの芸術文化に親しみ、関心を深め、さらに自ら公演に出向き、あるいは芸術文化活動に参加する。これらアウトリーチやアウトリーチ的事業をより発展的に進めていくことは、このような心の豊かさをもって人々が共生する三芳町の未来図であると思う。

古田土 勝市 委員（古田土フルート工房代表）

・子どものピュアで、好奇心、感受性の豊かな時期に、演奏者と一緒にブレスをして、少人数で間近に生の音楽を聴ける。

・仕事から離れ少し心に余裕が出来た時、自分を再発見出来るような機会に出会える。

・お年寄り、病気や障害を持っている方たちとも音楽やお話で心を通じ合える。

いずれもアウトリーチ、アウトリーチ的事業が得意とすることだと思う。現在、文化会館等、施設の充実や、担当者の努力、経験の積み重ねにより形が整ってきていると思います。できれば子どもたちへの回数を増やす等、これからもより充実した展開を期待します。

吉田 佳世子 委員（三芳町立上富小学校音楽主任）

私は、このたびアウトリーチ委員会に参加し、三芳町のすばらしさを改めて感じさせていただきました。平成17年に竹間沢小学校の音楽室で初めてアウトリーチでの鑑賞を体験したときの感動は今でも覚えています。その後、毎年すばらしい演奏を聴かせていただき、いつしか当たり前のように取り組んでいました。今回委員会に出席し、立ち上げから参加されている皆さんとお話をすることで、事業を運営していく側のご苦勞を理解するとともに、子どもたちへの熱意を強く感じました。我々音楽の教員は、アウトリーチの事業部の皆さんの思いを今以上に知り、協力していくべきだと

思います。今後は、この事業が、子供たちにどのような力を育むかという視点を常に考え、鑑賞方法を工夫し、三芳町の子供たちに芸術を通して豊かな心が育つように指導していきたいと思います。

内田 清子 委員（三芳町立三芳東中学校音楽主任）

三芳町の芸術文化活動がますます盛んになり、子どもから大人まで感動できる環境が増え、さらに心豊かな生活ができるよう、今後もアウトリーチの活動に期待しております。

片山 孝 委員（文化会館指定管理者：東京ドーム・トールツリーグループ）

三芳町で行ってきたアウトリーチ事業の持つ大きな側面は、文化芸術の普及であることは間違いないけれど、これが仮に種まきだとすると、その種がどのように育つか、ということを経営的に捉えることはなかなか難しい。文化芸術に触れることによって生まれるのは感情や感覚といった目に見えないもので、文化芸術活動だけでなく、自分の人生や他者との関わりにも少しずつ還元されるからだ。例えば、自分の学校に来たアーティストの演奏に感化されて、得意の水泳を頑張る子だっているかもしれない。そう思うと、アウトリーチ事業が単なる文化芸術活動の促進ではなくて、人間形成や社会形成に大きな役割を果たすということを、この委員会の議論の中で改めて認識させられることとなった。

事務局 長谷川 幸（生涯学習課副課長）

三芳町の芸術文化活動の一環として、長年にわたり音楽アウトリーチ事業が今日まで継続的に進められ、また近年、積極的に取り組んできたことに関して、委員の皆様と三芳町のアウトリーチについて、今までの取り組みの経過も含めて、様々なご意見を伺うことにより委員の皆様方の想いも含めて、改めて確認することができ、大変、印象に残っております。

今後、委員の方々の様々な意見を通じ、得たご意見を元に、更に三芳町の芸術文化活動が体系的に発展していくよう、努力していく良い機会になったと考えております。
ありがとうございました。

事務局 三田村 宗剛（生涯学習課生涯学習担当主任）

アウトリーチ事業の実務は担当者レベルで行われていたが、アウトリーチ委員会を通じて、これまでの活動がどのような成果を生んできたかを省みることができ、やってきたことが間違いではなかったことが確認できてよかった。

また、アクションプランとして明確に仕事を作業化することによって、たとえ担当者が変わろうとも、これまで積み重ね上げられてきたアウトリーチ活動は今後も衰退することなく、三芳町民の心を豊かにしていく取り組みであり続いていくことを願います。

アウトリーチ委員会の活動記録

アウトリーチ委員会の構成

委員長：伊勢亀 邦雄（生涯学習課長）

委員：楠瀬 寿賀子（三芳町芸術文化推進事業アドバイザー）

委員：古田土 勝市（古田土フルート工房代表）

委員：吉田 佳世子（三芳町立上富小学校音楽主任）

委員：内田 清子（三芳町立三芳東中学校音楽主任）

委員：片山 孝（文化会館指定管理者：東京ドーム・ホールツリーグループ）

事務局：長谷川 幸（生涯学習課副課長）

事務局：三田村 宗剛（生涯学習課生涯学習担当）

アウトリーチ委員会の記録

	開催日時	出席者数	内 容
第1回	平成30年1月23日	委員5人 事務局2人	委員会の目的の確認 アウトリーチ活動の振り返り
第2回	平成30年2月27日	委員6人 事務局2人	今後のアウトリーチ事業の進め方について提案 報告書原案の作成
第3回	平成30年3月22日	委員4人 事務局2人	報告書案の確認 意見交換